

Opinion

日本の大学の多様化、特色化を促すには？

「入学校歴社会」から
真の「学修歴社会」へ。
アジア市場の開拓に好機

国際競争力を表す THE大学ランキング

前年9月に発表されたTHE世界大学ランキング2018では、日本の大学のランキング校数は89校と、1年で20校増加しました。ランキン校数世界第3位の大学大国となったのは、各大学の改革のたまものと言えませんが、第2位のイギリスを次回は抜くこの勢いを、他国は脅威に感じているはずです。各大学におかれては、これまでの取り組みに自信を持っていたいただきたいと思います。

* 大学IR総研の調査によると、

THE世界大学ランキングは、ほかの世界大学ランキングと比べて参考になっている大学が多いという調査結果が出ています【図表1】。私たち文部科学省は、THEが主催する世界学術サミット2017に参加して、このTHE世界大学ランキングを運営するTFS(Global)と議論すると同時に、日本の大学から寄せられた要望を提案してきました【図表2、3】。中国やシンガポールはすでにTHEとコミュニケーションをとり、国際競争力を上げてきています。日本でも産官学の定期的な会合を開くなど、継続的に取り組んでいきます。



文部科学大臣補佐官 鈴木寛

すずきかん ● 東京大学法学部卒業後、通商産業省に入省。慶應義塾大学助教授、参議院議員、文部科学副大臣などを経て2014年2月から東京大学公共政策大学院教授、慶應義塾大学政策・メディア研究科教授。2015年2月から現職。

資源を集めるための 新たなネットワークを

大学経営は今、正念場を迎えています。少子化の影響で授業料、受験料、運営費交付金、私学助成金が総額として減少しています。子どもがいる世帯自体が全世帯の2割程度という現実があり、運営

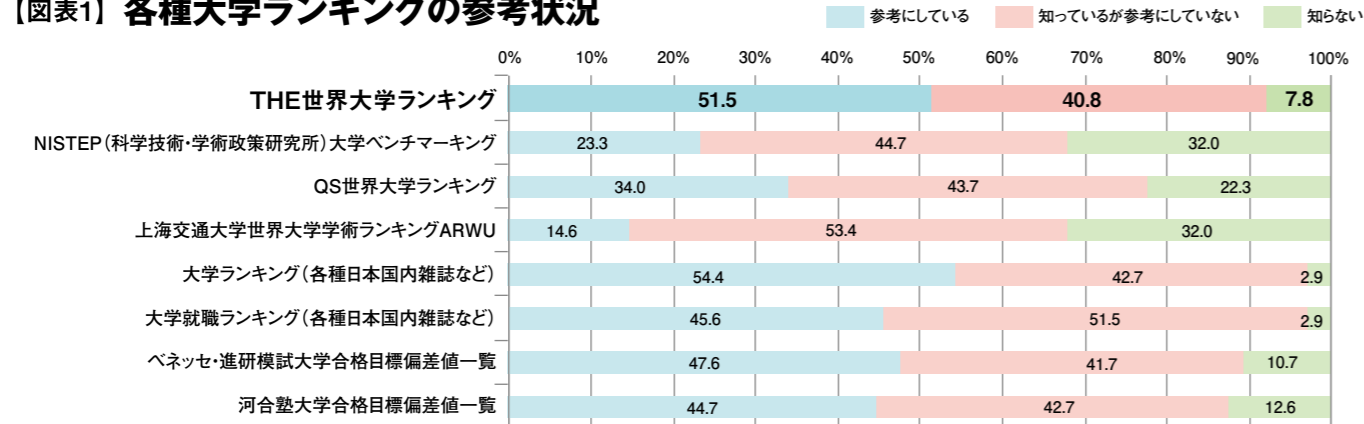
費交付金、私学助成金の増額は民意を得るのが難しい状況です。経済界からも、高等教育は投資に値するののかという疑問が投げかけられています。

今こそ、大学の収支構造を組み替えるチャンスです。交付金、助成金だけに頼らず、海外の学生、企業、政府、また国内の企業、地

【図表3】 THEに提案した 日本の大学からの要望

- ▶ マスメディアや専門家を対象とした説明会やワークショップの開催
- ▶ ランキング掲載サイトの大学個別ページにランキング算出方法を併記
- ▶ 設置区分(国立/公立/私立)別のランキングの作成
- ▶ 学生にとってのコストパフォーマンス(学費等)を指標に加える
- ▶ 「世界学術サミット」の分科会を開催など

【図表1】 各種大学ランキングの参考状況



* 大学IR総研「大学ランキングに関するアンケート」を基に作成。(2017年10月実施。対象：学長等大学の執行部およびIR担当。93大学104名より回答)

【図表2】 世界学術サミット2017の様子

開催日時 2017年9月3～5日

開催地 キングス・カレッジ・ロンドン(イギリス)

参加者 世界各国の大学教職員、政府関係者、企業関係者など50か国、540人以上

プログラム内容 世界大学ランキング発表、パネルディスカッション、分科会など。プログラム間に、参加者間での人脈構築・情報収集が盛んに行われる。



方自治体などの新しいステークホルダーと連携し、社会資源を集める構造をつくる時機ではないでしょうか。こうした新たなステークホルダーに自学の特徴を説明する材料として、外部機関のランキングデータは適していると言えるでしょう。

**国際性の高さ II
その大学の成長可能性**

日本の社会では依然、個人を評価する際、最初に入学した大学の入試難易度が重視されます。しかし、本来重要なのは、「何を学び、何を得たか」です。文部科学省は、「入学校歴社会から、真の学修歴社会へ」と社会のマインド転換を図ります。

突破口は、社会人の学びです。「人生100年時代」と言われる今後は、働きながらも学び続ける時代です。1人が一生のうちに3回大学に行く社会になれば、2、3回目に入試難易度ではなく、「大学で何を学ぶのか」を重要視するはずです。

これを、まず海外から推進します。外国人は大学の中身を見て入学先を判断します。他の先進国と比べれば圧倒的に学費が安く、多くの大学が世界ランキングにラン

クインしている日本で学ぶことは、コストパフォーマンスに優れていると言えます。加えて日本では大学設置・学校法人審議会が教員一人ひとりの資格を審査しており、高い教育・研究レベルが保証されています。

特にアジアは高等教育へのニーズが劇的に高まる反面、一部のトップ校を除くと大学の質が量の増加に追いついていません。これまでアジアの留学生受け入れはコスト高となる場合もありましたが、今では支払い能力が十分に高まっています。日本はその受け入れ先に名乗りを上げる絶好の機会です。

アジアにおける日本の大学の立ち位置、日本人の入学者が確実に減少していく未来を考えると、どの大学も「グローバル化や国際化は関係ない」という認識ではいられないでしょう。外国人学生が増え、グローバル環境が充実すること、日本人学生にとってもメリットとなります。

今や国際性こそが、「大学の成長可能性」を表すと言っても過言ではありません。世界大学ランキングのような国際標準のデータを大いに活用して、海外市場を視野に入れた教育・経営改革を進めていただくことを願います。

* 一般財団法人大学IR総研(理事長:佐藤祐一)。THEへの提言の詳細はサイト上で確認できる。https://iru.or.jp/



TES Global
データ・解析
ディレクター
Duncan Ross

ダンカン・ロス ● 世界大学ランキング・国別ランキング設計の責任者。DataKind UKの理事会の議長を務め、政府の公開データを活用し、非営利組織全体の大規模なデータの利用を推進している。

日本の大学には留学に適した条件がそろっている

世界の高等教育政策は熱気を帯びつつある

世界は高等教育の重要性を再認識し始めています。ロシアでは2020年までに5校以上を世界大学ランキングTOP100に入れた。よとの大統領令が出されました。ドイツではGDPの3.5%を研究に投じる合意がなされています。このような状況の中、THE世界大学ランキング2018（以下、世界版）で89校もの日本の大学がランクインした結果は大きなインパクトがありました。下の図表は、前年10月に発表した世界版学問系統別ランキングです。日本からはのべ100もの大学が多様な系統にランクインしています。しかし、世界版に登場する大学は日本の大学の一部。私たちが教育力重視の日本版ランキングを作るのは、日本の大学の多様性と優れた点をどうしたら世界にアピールできるかを考えた結果です。今回の日本版ランキングも前回同様全体としてスコアは僅差であり、各大学が高いレベルで競い

世界版学問系統別ランキング(2018)の日本の大学ランクイン数

学問系統	大学数	大学(順位)
芸術・人文科学	4	東京大(45)、京大(100)、名古屋大(251-300)、早稲田大(251-300)
社会科学	6	東京大(40)、京大(101-125)、名古屋大(126-150)、東京工業大(201-250)、北海道大(301-400)、筑波大(301-400)
医学・健康科学	26	東京大(32)、京大(40)、大阪大(92)、東京医科歯科大(176-200)、慶應義塾大(201-250)、東北大(201-250)、首都大学東京(201-250)など
教育学	1	東京大(47)
生命科学	26	東京大(36)、京大(37)、大阪大(58)、名古屋大(126-150)、東北大(151-175)、北海道大(176-200)、慶應義塾大(201-250)など
物理学	13	東京大(36)、京大(62)、名古屋大(126-150)、東北大(126-150)、東京工業大(151-175)、大阪大(176-200)など
技術・工学	17	東京大(35)、京大(42)、東北大(61)、東京工業大(65)、大阪大(98)など
情報工学	7	東京大(35)、京大(51)、大阪大(101-125)、名古屋大(176-200)、九州大(201-250)、東北大(251-300)、早稲田大(251-300)

*経営・経済学、法学、心理学はランクイン大学なし。

合っています。分野ごとに見ると、国立大学が強い分野（教育リソース）、私立大学が強い分野（国際性）、国立大学が優位ながら、私立大学にも優れた大学が少なくない分野（教育充実度、教育成果）と、それぞれ特色が出ています。

学生の輸入大国になる条件を備えた日本

日本の大学は外国人留学生の確

保に苦勞していると聞きますが、教育・研究の質が高い割に学費が安く治安もよいなど、外国人にとって留学に適した条件がそろっています。外国で学ぶ学生が世界的に年々増える中、アメリカは反移民政策を取り始め、イギリスはEUを離脱し外国人受け入れに消極的。日本は、学生の輸入大国になり得ます。ぜひ、海外のマーケットへと目を向けてこのチャンスを生かしてください。THEでも、本年9月にシンガポールで世界学術サミットを開催し、皆さんが他国の大学とネットワークを広げる機会を提供したいと思えます。

Opinion

日本の大学の多様化、特色化を促すには？

改革に役立ち、大学の特色を表す客観的・相対的なデータ



(株)ベネッセコーポレーション
大学・社会人事業本部
統括責任者
藤井雅徳

ふじいまさのり ● (株)ベネッセコーポレーション高校事業部にて高校の教育改革支援や海外トップ大進学塾「Route HJ」開発に携わった後、現職。THE世界大学ランキングや語学・留学事業を通じて大学のグローバル化を総合的に支援。

ベネッセグループは2016年にTHEと業務提携を結び、世界大学ランキングの正しい理解と活用を促すため、日本の大学への情報提供とコンサルティングに取り組んでいます。ランキングの考え方、データの信ぴょう性、世界各国への浸透度などから、THEは最も信頼の置ける世界ランキングであるとの認識を持っています。私たちはこの1年、世界大学ランキングについての勉強会を約2

00大学で行ってきました。そこでお伝えしているのは、特色化のために改革を行うには、順位によらず、スコアをいかに活用するかが重要だということです。各大学にはさまざまなデータが存在します。しかしその多くは学内調査によるデータで、過年度比較や学部間比較に用途が限られています。世界大学ランキングのデータは外部機関によって測られた、他大学と比較できる相対的なデータです。各大学の強み、課題、伸びしろなどが数値として算出されており、学内データとは別の観点から大学改革に活用できます。日本版では今回初めて学生調査を実施しました。「教員と交流する機会がどの程度あるか」「授業にどれだけやりがいを感じているか」「学びが自信につながっているか」「友人や家族に自分の大学を勧めるか」といった口の質問を用意し、411大学にご協力いただきました。調査数がTHEの基準を満たさず、今回は指標化を見送りました。4月現在、THEが回答を分析中です。

ランキングマネジメントをめぐる課題を克服し教育・経営改革へ

マネジメントの課題は「誰が?」「どのように?」

ランキングへの対応について大学経営層の方々にアンケートをとったところ、ランキングをさまざまな形で教育・経営改革に役立っているという声の一方で、必要性は感じているものの活用には課題があるというお悩みもいただきました。

改革に活用する手法としては、「改革の方向性を議論する際の材料」「改革の達成度を示す指標」といった学内で活用する手法と、



(株)進研アド
取締役本部長
田邊心技

たなべしんぎ ● (株)ベネッセコーポレーション高校事業部にて数々の高校の教育改革支援に携わった後、2015年より現職。THE世界大学ランキングでは、日本のカウンターパートを担当する。

「国内募集広報に使用」「THEのメディアパワーを使った海外でのブランディング強化」といった学外向けの手法があります。一方で、活用にあたっての課題は、大きくは組織面と方法面の2つの側面があるようです。組織面では、「入力、分析、活用など」どの部署が担うかが決まらない」「IR室のマンパワーが足りない」といった課題があるようです。方法面では、「注目すべき分野・スコアが定まらない」「世界版(研究力)と日本版(教育力)のどちらを重視するか迷っている」といった課題を伺います。これら2つの面をまとめると、ランキングについては、「誰が」「どのように」マネジメントしたらいいかわからない、という点に集約されます。日本版ランキングは、日本の大学の学部の教育力を可視化し、強みを伸ばして弱点を補強する改革の指標の提供をめざしたものです。私たちはランキングに関心を寄せてくださる全ての大学と共に、こうした課題の解決に取り組んで参ります。